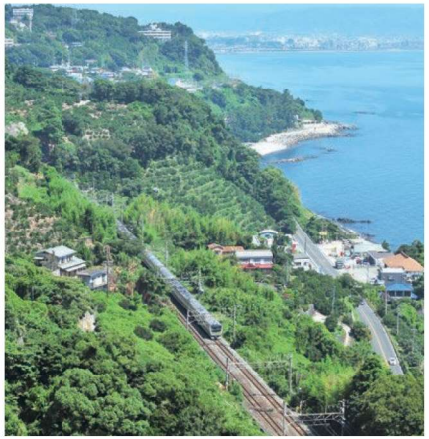
小田原に引き寄せられる

小田原で生まれ育った2人と、小田原へやって来て活動する2人。地元民が小田原を離れず、外からの職業人が小田原に居続ける理由は何なのか。人を惹きつけて止まない小田原が持つ磁力の正体を明らかにします。

鎧塚 俊彦 さん
「Toshi Yoroizuka」オーナーシェフ
京都府出身、1965年生まれ。23歳でパティシエの世界に入る。1995年、スイスに渡って以降、オーストリア、フランス、ベルギーで8年間修業を積む。2000年、INTERSU2000（パリ）で優勝。日本人として初めてベルギーの三ツ星レストランでシェフパティシエとなる。帰国後、2004年に恵比寿に「Toshi Yoroizuka」を、2007年に東京ミッドタウンに「Toshi Yoroizuka Mid Town」をオープン。2011年、小田原で2,000坪の農園を併設した「一夜城Yoroizuka Farm」を開設。日本を代表するパティシエとして精力的に活動。2012年からは「小田原ふるさと大使」に就任している。



小田原の引力

鎧塚　小田原の早川地区で「一夜城Yoroizuka Farm」をはじめて10年が経ちましたが、小田原はまだまだこれからの街だという思いがあります。ポテンシャルは比類なく高い、しかし今一つ良さを生かし切れていない。そこが、もどかしい（笑）。

コアゼ　地元民としても、それは感じますね。箱根や伊豆へ行くまでに一服するための街、なんて言われてきましたから。

たなか　温泉までの通過点としてしまうのは、とてももったいない。小田原市内を歩きながら、気に入った場所、景色を見つけて絵にしていますが、小田原だけでも楽しめる場所、面白い景色がたくさんありますよ。

原　大きな城下町としての魅力や、山海の幸にも恵まれていますよね。でも関東近辺において東海道といえば、最大の難所である箱根越えのイメージですし、江戸時代の関所も有名ですしね。小田原はその手前にある街、くらいの印象かもしれません。また、300年経ってはじめて老舗と呼ばれるような古い街でもあるから、気軽に行きにくいと思われているのかな。

鎧塚　食べるのに困らない、そうなると自分たちだけで生活を完結できますからね。そこが「よそ様には頼らない」という気風になったり、鷹揚（おうよう）な人柄として表れたりするのでしょう。小田原の人は人懐っこいですよ。

原　ここ10年ぐらい、若い人、よその人を受け入れていこう、新しい価値観を取り入れていこうという気運が高まってきています。従来の小田原的な価値観と若い人、県外出身の人の感性とのバランスが、ちょうど良い具合にミックスされはじめています。

コアゼ　実際、東京では小田原が気になる人が増えていて、知人も「お、噂の小田原民か！」と言われたそうです。私が取り組んでいる2泊3日の「お試し移住」への申し込みも増えてきていますし、小田原が変わろうとしているのは確実に伝わっていますよ。

たなか　小田原を気になっている人が増えているイメージはありますね。ただ、東京や地元を脱出するとなると、実家や学生時代に住んだ街など、何かしら縁のある場所を選ぶケースを多く耳にします。ふらりと小田原に立ち寄って移住を決めてしまった私のようなケースは少数派ですから、そこは何か仕掛けや取っ掛かりも必要ではないでしょうか。

小田原の可能性は無限大

鎧塚　通過点で構いませんというのと、足を止めてゆっくりして満足してもらいたいというのとでは、飲食店の店づくりやマーケティング、もっと言えば街づくりまで違ってきます。たとえば、小田原は大きな宿場町としての歴史があるのに、ホテルの数が他の都市に比べて少ない。スルー、Uターンされることが前提になってしまっている。裏を返せば、ここに手つかずの可能性があるんですが。

原　大きなホテルは少ないけれど、実は小田原には個性豊かな民

宿やゲストハウスがたくさんあって、外国人も含めていろいろな人のニーズを完璧に近いぐらいにカバーしているんですよ。

たなか　自分のスタイルに合わせて、滞在の仕方が選択できる。だから、小田原に泊まって街を歩いてみて、はじめて1泊や2泊では足りなかった、と言う人は多いです。小田原を知らない人に来てもらい、魅力を知ってもらうための仕掛けづくりは本当に大事。

たなか　小田原に限らず、あちこち行って歩くのが趣味なのですが、通過した街でも窓から見えた建物や景色のなかに、自分のなかで「引っ掛かった」ものが2つぐらいあれば、どんなに遠くても後日足を運びます。小さな引っ掛かりが重なることで、大きなモチベーションになるんだと思います。

鎧塚　宿泊、滞在を促すモチベーションづくりという点でも、歴史が長いし人も多く往来してきたから、新旧の要素はたくさんある。それらをどう見せていくのか、発信していくのか。ここに、若い人や移住してきた人たちの感性やセンスを生かすチャンスが大いにあると思いますよ。

たなか　東京との距離感も程よく、都会の良さも地方の良さもあって、海も山も川も近い。ほかにもありそうだけど実は小田原にしかない魅力は、同時にクリエイティブな刺激に満ちていますから。

原　長くていろんな歴史があるからこそ、小田原には多様な価値観が当たり前にあって、ビジネスでも文化芸術でも、やりたいことを受け入れてくれる素地が揃っています。通過を前提としない小田原のまちづくりは、これから我々と移住者が担っていくわけですね。

コアゼ　ピュアな心で新しいこと、面白いことをやろうとしたら、周囲も協力を惜しまないのが小田原の人の良さですし、ワクワクしますよ。

鎧塚　小田原が持つ美点とポテンシャルを、いろんなかたちで発信し続けることが重要です。同時に、小田原で生計が成り立つ仕組みを見せることで、移住者や興味を持つ人も増えるでしょう。私も仕掛けていきますよ（笑）。

一同　一緒に小田原を盛り上げていきましょう！

原 正樹さん
小田原ガス株式会社／湘南電力株式会社 代表取締役社長
小田原ガスは2023年に創立110周年を迎える。「小田原は神奈川県下で老舗が多いんです。何百年も商売を続けてきた人たちが、若い人や移住者と一緒に変わろうとしている姿がとてもいじらしいですね」

コアゼ ユウスケ さん
Tipy records inn 代表／ARUYO ODAWARA コミュニティマネージャー
2泊3日、ゲストのライフスタイルに合わせたオーダーメイドで小田原の魅力を紹介。希望者には2時間散歩をしながら案内する。「小田原市と連携して実施しているお試し移住は90組を超えました」

たなか きょおこ さん
イラストレーター
2017年に移住、小田原、近郊の街並みや風景を色彩豊かに描く。「何も知らずに移住しましたが、地元の人が本当に応援してくださるんです」